４月１３日は主治医の定期診断日です、朝 8 時に妻の車で家を出た。
四街道にある国立病院機構の広い駐車場は既に満杯。受付は 8 時半に済ませ整形外科（骨粗鬆症治療・今回は 9 時薬だけ）と神経内科は（１０時）主治医診断の予定だった。診察前の血液検査は 57 番目。待合室はもう満杯。特に神経内科患者は 1～２人の介助付き、私は 81 歳の連れ合いが介助です･待合室はおおよそ患者の 2 倍近くです。周りは高齢者が多い。それぞれベッドような椅子・電動椅子・そして四つ足の歩行器の上の狭いところに座って待つ私など、様々です・私は血液採取も、診察の際もこのままの姿勢で受けています。

もともと移動は車椅子だったのですが、現在の病院に 4 年前からお世話になるまでの病院で、ステロイド 20 ミリ毎日服用 1 年間、自宅での腰椎骨折の治療で 1 年半コルセットを付けたことがあり、腰を曲げることが・急速に難儀になり、自宅や・待合室のソファーや車いすに座れなくなってしまいました。

私用の歩行器でも 30 分も座ろうものなら床ずれしたお尻が痛み出す、立ち上がらせてもらって壁にもたれかかる。周りの方がたは無口です、どう見ても私より重い病です。みなそれぞれにジーッと我慢しているように見えます。それに対応する医師特に看護師さんたちは、相手の目線に合わせ立膝でゆっくり丁寧に話しておられる。この病院の換気はじめコロナウイルス防衛もなみではない・さて

このようなところにコロナウイルスが来たら、1 体どうなるか。私は心配になった。診察中に主治医に「私が変異ウイルスなったらここで入院させてくれますか」と尋ねた。
即座に『できない』との返事。私はすぐ理解できた。どうしてかというと、この国立病院機構の病院には１２病棟があり筋ジストロフィー患者.小児麻痺、身体麻痺、大きな怪我重い病気の方々が各地から紹介されてきて長期に入院されておられる。

かってわたしは定年後、月 1 回、数年間・お散歩ボランチアで看護の様子をチョット垣間見たことがあります。ベッドからお散歩用いす（ベッドのようなもの）に移し替え・涎（よだれ）をぬぐうタオルを私らが受け取って散歩に出ている間に、ベッドメーキングなどをする。途切れなく看護と介助をなさる病院の方がたの仕事ぶりに脱帽でした。
私等は患者さんと 1 時間、近くの中央公園で木々の緑、さわやかな日差し ni 出会うと、声にはならない声でウーッと喜びの様子を示します。生の喜びを素直に示すことにどんなに心が洗われたことか。筋ジスの方の誘いで共に構内のごみ拾いをさせてもらったり、近くの県立高校生に｛命の授業）をなさる。未病の時の私にとって貴重でした。
さて４月２３日の新聞に・人口９万強の千葉四街道の感染者は４６７人になっています。昨年の東京の第１波並です。我が町にはコロナの陽性患者が入院できる病院はありません。自宅感染が増えています。コロナの急拡大で一般病床、市民の重篤な方にしわ寄せがいくこと、立場の弱い人の命を危機に追いこんでいく。医療崩壊とは、こういうことなのだと思います。四街道で１０歳未満の感染者が発生しています。変異ウイルスは、児童、若者にも感染力があることが明

らかになっています。介護 1 の私は **6** 年間「巣ごもり生活」で週 **3** 回の訪問介護の方がたの世話になってきました。ともに心を通い合える同病の方がた。会長の浅野さんの巻頭言に励まされ、寄稿することにしました・感恩です。

090—3082—5322

Email: dogcat@dp.u-netsurf.ne.jp

URL : http://www1.u-netsurf.ne.jp/~rabbit/